

臨床倫理学入門コース実施報告

京都大学大学院文学研究科応用哲学・倫理学教育研究センター（CAPE）及び京大オリジナル（株）主催による、臨床倫理学に関する教育プログラム（臨床倫理学入門コース）を2022年8月19日と9月10日に開催しました。入門コースの実施は7回目で、参加者は全国から59名の受講生と、ファシリテーターと講師13名、京大オリジナルから事務局2名で実施しました。

1日目はオンライン形式で事例を紹介した後に小グループで意見交換をし、その後3週間の間にオンデマンドによる動画視聴をしてもらい、2日目は、対面とオンラインのハイブリッド形式でライブ授業を実施しました（受講生のうち、オンラインが36名、対面が23名）。

臨床倫理学コースの目的は、臨床で難しい事例に遭遇した人が、問題を適切に考えて対応できるように技能を身につけ、現場で活動してもらうことです。課題の解決には、問題を特定してその要因を探る、患者の利益を最大にするのに適切な方策を考える、戦術・技術も立てて実践する、といったことが必要ですので、これらに必要な技能を講義や演習を通じて学べるように構成しています。入門コースでは、2つの事例（うら若き進行期のがん患者に、本人に黙って代替治療をやってほしいと親が望む事例と、回復不能な状態の患者が事前指示書にて生命維持治療の中止を希望している事例）を取り上げて、相談を受けた臨床倫理コンサルテーションチームとして、相談者にどのような助言を返すかを検討していただきました。

事例を検討する際は、「考える道筋」を構造化した方法に沿って検討することを提案しました。考える道筋は、まず患者さんの状況やまわりの人間模様を含めた空間全体を見渡して、それぞれの考えやその源泉となっている欲、感情、利益などを把握すること、そして、原則に基づいて患者の利益になる方策を考え、それを実践するために誰にどうアプローチするかの方針や言い方などの技術も考える、という段階を踏むものです。さらに、関係者各人の苦しみを把握してそれを緩和する方法を考えるという「慈・悲の視点」を意識してもらうようにしました。

受講生のみなさんは、活発に意見を出して、熱心に議論し、戦術や技術もきちんとまとめていた班も多くありました。患者や家族、医療者の気持ちに配慮しながら話を進めるといった気遣いを示してくださった班もあり、みなさんの報告を聞きながら

「考える道筋」は結構役に立つのではと思えて、ほくそ笑んでおりました。もちろん、型のようなものなので、その中でしか考えられないという欠点はあるのですが、まずはこれを心に持ってもらい、現場で使いながら血肉化して、守・破・離の教えの通り、使いこなせるようになっていただければと思います。

私が「考える道筋」を使ってもらうのがよいと考えたのには、主に2つ理由があります。一つは、これまで複数回、入門コースを実施する中で、四分割法だけでは、原則に基づいて方策を立てたり、方策を実現する際の障壁になっている関係者の考えや感情を観察して戦略を考えるところまでなかなか到達してもらえないと感じたからです。そこで、四原則を用いて方策を考え、自分や他者の気持ちや価値観も考えて

戦術や技術も考えるステップを組み入れました。さらに、各人が「患者はどうあるのがよいと思うか」を考えるように支援することや、各人の苦しみを見て和らげる方法を考えるステップも取り入れ、マンダラ・チャートなるツールにまとめて、これを使うようにしました。

もう一つは、患者の問題を QOL や倫理原則に基づいて検討することは重要ではあるのですが、現場では、理屈だけでは割り切れない、あーんなことやこーんなことがあり、倫理コンサルタントのような立場の人が身をもって間に挟まったり、後ろ盾になったりすることで収まる部分もあると思うようになったからです。私自身が患者さんとの出会いから学んだことや、これまでのコースで経験したことを通じて、倫理コンサルテーションのありようを考えるようになったことも大きく影響しております。臨床の現場では、同じような事例であっても、各人の背景や考え方が異なればアプローチの方法はまったく異なりますし、倫理コンサルタントがどのように関わって関係性をつくるかによっても変わってきますので、「考える道筋」を持ち、それぞれの患者さんの人生全体とまわりを大局的に見て、同時に、各人の心の奥に降りていくことができたらいかなと思いました。

今回の入門コースでも、とある班の報告では「患者の利益にならない治療は中止する方向でよいが、患者と家族がよい関係を保ちながらお見送りができる配慮が必要であり、そのための働きかけや時間も必要である」「倫理コンサルタントとして、病院として、覚悟を決めて臨む」といった意見も出され、みなさんが当事者の傍らにたたずんで取り組もうとしている姿が見えて、頼もしく思いました。

また、今回は、2 日目のお昼休みにハイブリッドでの質問タイム、ならびに、終了後は Wonder という文明の利器を使っての意見交換会を持ちました。いずれも、現場での悩みや工夫をお聞きしたり、意見を交換できたりして、楽しい時間を過ごしました。ハイブリッドでの授業は少々心配だったのですが、つつがなく実施することができて、参加してくださった受講生のみなさま、講師やファシリテーターのみなさま、そして、準備から運営まで細やかな気遣いをしてくださった京大オリジナルのみなさまに感謝申し上げます。

入門コースを受講した理由やニーズは、人それぞれだと思いますが、患者・家族や医療者がよい状態で過ごせるように支援をしたいという気持ちは共通で、よいご縁をいただいていると感じています。本コースを通じてつながりを得た受講生が立ち上げた「りんこん研究会」が倫理コンサルを支援すべく活動しておりますので、こちらにもご参加いただければ幸いです。

2022 年 9 月 17 日

佐藤 恵子